

動き出した 「まちづくりフォーラム in 行方」市民会議

5月28日、玉造農村環境改善センターにおいて「まちづくりフォーラム in 行方」が開催されました。「まちづくり市民会議」や市職員からなる「若手職員会議」のメンバーを中心に約60名の参加があり、本市出身の関悦子氏による基調講演や意見交換会が行われました。

「まちづくり市民会議」とは、本年度に策定する行方市総合計画に対して、意見や提案をいただくために設置された市民による組織です。現在26名で、随時参加を受け付けています。

また、「若手職員会議」は、市職員のうち各部署から推薦された30歳以下の24名の職員で構成され、市民会議と一緒に活動しています。



講師の関悦子さんが、小布施町の事例を紹介

第1回活動報告

1 まちづくり市民会議

● 5月28日(日) 午前9時～

市民会議の第1回の活動として「タウンウォッチング」を行いました。玉造海洋センターをスタートとして、北浦地区から麻生地区、そして玉造地区とバスに乗車して新市をひとまわりしました。午前中の限られた時間でしたが、新市の主な交流施設を中心に市内を見学しました。

2 まちづくりフォーラム基調講演

「小布施方式まちづくり」
● 午後1時15分～

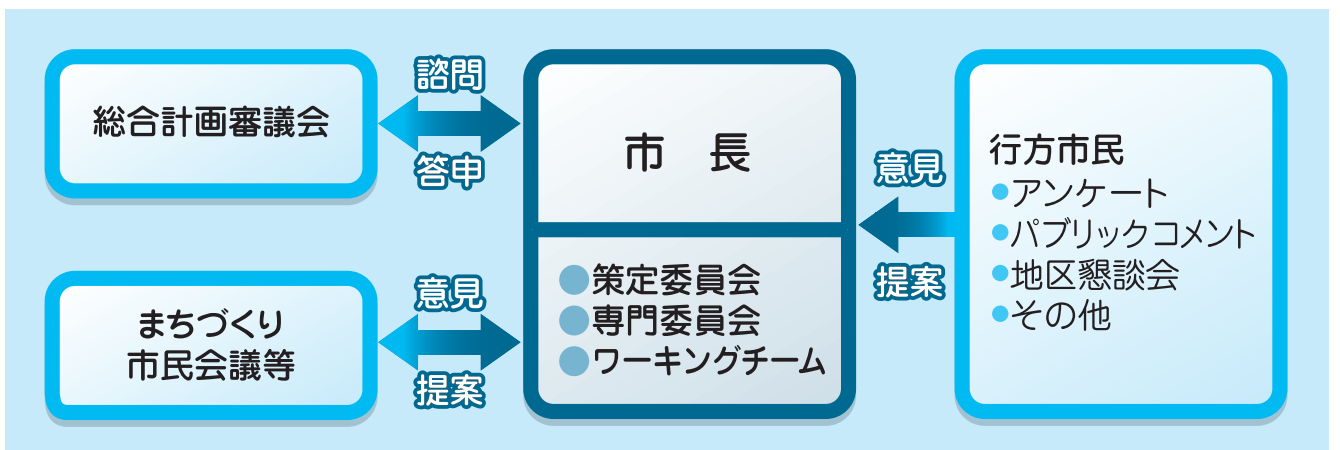
講師 関悦子氏

旧玉造町出身、明治大学卒業後長野県小布施町に嫁ぐ。第三セクターである株式会社ア・ラ・小布施取締役企画部長として、各種イベントの実施、ゲストハウスの運営などを行っている。また、まちづくり実践者として全国規模での講演活動や国土交通省はじめ公的機関の委員や各種コメンテーターも務める。

講演内容

小布施町は景観が良く、「外は皆のもの、内は自分のもの」が定着し、独自のまちづくりが展開されています。また、来訪者(リピーター)が多く、交流が盛んに行われている等、現況報告をされました。

小布施町は小さいながらキラリと光るまちづくりで全国でも有名。ここでは、住民すべてがまちづくりに取り組んでいます。



●意見交換会

コーディネーター 齋藤 典生氏

茨城大学人文学部教授 地域経済論などを研究し、全国のまちづくりの事例研究にも汗を流す。本市の総合計画審議会副委員長を務める。

質問 まちづくりには「よそ者、若者、ばか者」の力が必要と聞きますが、交流についてどのように進めてきたのですか。

関さん ▼よそ者の目は大切です。小布施は昔から他人を受け入れる地域であり、他人を応援する人たちが多くと感じています。

質問 行方市の市民の意識が一体化する手法があればアドバイスをお願いします。

関さん ▼小布施は合併をしない方針でしたので合併による住民意識ということは正直わかりません。ただし、



合併にかかわらず、意識をしっかりと持った人たちが増えていくことで、おのずとしっかりした街になっていくと思います。皆の意識が多少違っても一人ひとりがこの街をどうするのか、どうしたいのか、それが大事です。

齋藤さん ▼小布施では、外との交流と内での交流の両方をうまく進めています。運動会やいろいろなイベントで町内が盛り上がっているそうです。

質問 小布施の町民が景観を重要とするようになったのはいつごろからでしょうか。

関さん ▼町並み景観事業がきっかけとなっています。例えば、生け垣の補助やほう賞などで行政も関わってきました。町民が自然にゴミを拾うことなども当たり前になっています。

質問 行方市も農村景観には配慮すべきと思われませんが、小布施の農業の取り組み、地産地消などはどうでしょうか。

関さん ▼農業は基幹産業で、「強く、やさしく、おもしろく」が合い言葉です。来訪者に生産者、農作物、加工などすべてオープンにすることが重要です。また、すべては難しいですが学校給食にできるだけ地元産を



使っています。そこでとれたものその場で食べることが一番おいしいのです。

●コーディネーターのまとめ

齋藤さん ▼小さなことを積み重ねて今の小布施があります。行政がうまく住民を引っ張っていき、そこに住民がうまく乗っていく。もともと他人を受け入れる素地や文化伝統を守る意識など、小布施の特徴をうまく捉えて進めてきています。

今日は、関さんから、いろいろな知恵をいただきました。今日の縁を大切に、これからも来訪されることもあるでしょうから、そのたびに知恵の落とし物をお願いしたいと思います。

第2回活動報告

まちづくり市民会議

●6月3日(土) 午後1時30分
第2回の活動として、「行方の強み、弱み」をテーマにワークショップを行いました。

今後、どのように強みを伸ばし、弱みを克服していくか活発な意見が出されました。湖の環境を改善すること、世代間・地域間の交流を図ること、知恵を使ったPR活動を実施していくことなどがあげられました。



市民会議のメンバーによるワークショップ